



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第十二号〕

芒種ぼうしゆ

六月 六日



## 御田植祭の踊り込み唄

穀物の種を蒔く、芒種ぼうしゆ。鳥路山を越えた志摩市磯部町の伊雑宮いざうのみやでは毎年六月二十四日の、この季節に御田植祭が行われています。

「磯部の御神田おのみた」と呼ばれる御田植祭は、伊勢神宮の別宮、伊雑宮の御料田で行われる田植え。その始まりは平安末期とも鎌倉初期とも言われ、国の重要無形文化財に指定されています。勇壮な「竹取神事」で知られていますが、祭りはそれだけではありません。午後三時頃から、祭りに奉仕した役人やくびとたちが御田橋に揃い、伊雑宮の一の鳥居までの約二百mの参道を二時間あまりかけて練り歩く「踊り込み」が行われます。役人たちが熱演をする練り歩き。その道中唄の踊り込み唄にはこんなものがありました。

「サア、宇治の浦田の作与茂殿は茄子なす半分なすで婿むこをかえた」

内宮前の宇治と伊雑宮の磯部はどちらが本来の神宮か争っていた昔、磯部の女を嫁にした宇治浦田に住む作与茂（作之丞、作右工門、作与門とも書く）が、世間の風当たりが強いので、ある日、隣家と買ったナスを分けるのに、隣に半個多く渡したのにつけて世帯持ちが悪いと、離縁りえんしたことをあげたというもの。一説には神宮の御師でありながら、磯部に見方をした作与茂が、奥さんがいると謀議ができないので、ナス半分のようなささいな事を理由に離縁りえんしたこともいわれています。

踊り込み唄に巧みに詠み込まれた神宮争い。こうした神宮争いの唄は、大正時代以降は唄うことを禁止されたといえます。伝統の祭りには思わぬ歴史が刻まれています。

六月、梅雨入りも間もなくです。

文 千種清美